

平成30年度
第62回簿記検定試験
1級(原価計算)

問題用紙

(制限時間 1時間30分)

(平成30年12月9日施行)

受験上の諸注意

- ・ 答案はすべて答案用紙に記入すること。
- ・ すべての答案用紙に受験番号を記入すること。
- ・ 赤字で記入すべきところは赤ペン、赤鉛筆を用いること。
- ・ その他答案の作成にあたっては、教科書に基づき日頃
学校で指導を受けている記帳の方法によって、正確・
迅速・整然と記帳すること。

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

売掛金	製品	/級製品	2級製品
第1工程半製品	買入部品	仕損品	健康保険料預り金
売上	売上原価	賃金	従業員賞与手当
健康保険料	棚卸減耗費 (棚卸減耗損)	仕損費	製造
第1工程製造 本社	第2工程製造 工場	消費賃金	賃率差異

(1) 個別原価計算を採用している鹿島工業株式会社では、製造指図書#4の製品全部が仕損じとなり、新たに製造指図書を発行して、代品を製造することにした。ただし、製造指図書#4に集計された製造原価は ¥280,000 であり、仕損品の評価額は ¥13,000 である。

(2) 会計期末に、賃率差異勘定の残高を、売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異勘定の前月繰越高は ¥88,000 (貸方) であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より ¥14,000 多かった。

(3) 個別原価計算を採用している唐津工業株式会社は、次の製品を受注先に発送した。よって、売上高および売上原価を計上した。

	A製品 (製造指図書#7)	B製品 (製造指図書#8)
売上高 (掛け)	¥ 7,320,000	¥ 2,160,000
製造原価	¥ 4,020,000	¥ 1,150,000

(4) 工程別総合原価計算を採用している佐賀製作所は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第2工程 (最終工程) に投入した第1工程の完成品原価は ¥5,700,000 である。ただし、当社では第1工程の完成品をすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

第1工程 ¥2,400,000 第2工程 ¥6,810,000

(5) 等級別総合原価計算を採用している武雄工業株式会社において、1級製品1,200個と2級製品900個が完成した。ただし、この完成品の総合原価は ¥6,120,000 であり、等価係数は次の各製品1個あたりの重量を基準としている。

1級製品 350g 2級製品 200g

(6) 工場会計が独立している伊万里工業株式会社の工場は、本社から工場の従業員に対する健康保険料 ¥640,000 を支払ったとの通知を受けた。ただし、健康保険料 ¥640,000 のうち半額は事業主負担分であり、半額は従業員負担分である。なお、健康保険料預り金勘定は本社のみ に設けてある。(工場の仕訳)

(7) 月末における買入部品の実地棚卸数量は460個であった。よって、次の買入部品に関する当月の資料にもとづいて、買入部品勘定を修正した。ただし、消費単価の計算は移動平均法によっている。

前月繰越高 500個 @ ¥1,220 ¥ 610,000
当月仕入高 1,500個 @ ¥1,260 ¥ 1,890,000
当月消費数量 1,530個

2

嬉野製作所は、組別総合原価計算を採用し、X組製品とZ組製品を製造している。次の資料によって、組別総合原価計算表とZ組製造勘定を完成しなさい。

- ただし、
- i 組間接費は直接労務費を基準として配賦する。
 - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 - iii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

資料

a. 当月製造費用

	X組	Z組	組間接費
素材費	¥ 391,400	¥ 492,000	—
労務費	¥ 160,000	¥ 340,000	¥ 136,000
経費	¥ 128,000	¥ 114,800	¥ 164,000

b. 生産データ

	X組	Z組
月初仕掛品	400個 (加工進捗度50%)	500個 (加工進捗度50%)
当月投入	1,900個	3,000個
合計	2,300個	3,500個
月末仕掛品	300個 (加工進捗度40%)	500個 (加工進捗度60%)
完成品	2,000個	3,000個

3

(1) 次の各文の () の中に、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

- a. 製造原価を計算する上での手続きで、まず第1段階では、原価の3要素である、材料費・労務費・経費の原価要素別に、それぞれいくら消費したかを計算するが、これを原価の (ア) という。
- b. 経費は、消費高の計算方法の違いにより、支払経費・ (イ) 経費・測定経費に分類される。また、製品との関連から、直接経費と間接経費に分けられ、 (ウ) は間接経費に分類される。
- c. 材料受入報告書、または送り状により、材料の仕入高を記入する特殊仕訳帳を材料仕入帳といい、出庫伝票などから材料の消費高を記入する特殊仕訳帳を (エ) という。

【語群】

- | | | | |
|----------|----------|----------|-------------------|
| 1. 部門別計算 | 2. 厚生費 | 3. 費目別計算 | 4. 材料棚札
(材料台帳) |
| 5. 外注加工賃 | 6. 製品別計算 | 7. 月割 | 8. 材料仕訳帳 |

3 (2) 次の貸借対照表（一部）と資料から、製造原価報告書ならびに損益計算書（一部）の（ア）～（エ）に入る金額を求めなさい。

貸借対照表（一部）		
平成○年／2月31日		
製 品	435,000	未払賃金 27,000
材 料	348,000	
仕 掛 品	412,000	

資 料		
①素 材	期首棚卸高	¥ 137,000
	当期仕入高	¥ 724,000
②工場消耗品	期首棚卸高	¥ 25,000
	当期仕入高	¥ 146,000
③賃 金	前期未払高	¥ 34,500
	当期支払高	¥ 563,500
④給 料	当期消費高	¥ 182,000
⑤仕 掛 品	期首棚卸高	¥
⑥製 品	期首棚卸高	¥ 347,000

製 造 原 価 報 告 書		
平成○年／月／日から平成○年／2月31日まで		
I 材 料 費	(	ア
II 労 務 費	(	イ
III 経 費		256,000
当期製造費用	(	
期首仕掛品棚卸高	(	
合 計		2,195,000
期末仕掛品棚卸高	(	
当期製品製造原価	(	ウ

損 益 計 算 書（一部）		
平成○年／月／日から平成○年／2月31日まで		
I 売 上 高		2,680,000
II 売 上 原 価	(	
売上総利益	(	エ

4 個別原価計算を採用している鳥栖製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /2月中の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 消費賃金勘定・第1製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (4) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。
- (5) 月末仕掛品原価を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	100個	@¥3,200	¥ 320,000
工場消耗品	140個	〃 250	¥ 35,000
賃 金（未払高）			¥ 37,000
仕 掛 品（製造指図書#1）			¥ 1,286,000（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算には、作業時間／時間につき ¥920 の予定賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥4,600,000	¥2,600,000
年間予定直接作業時間	9,200時間	6,500時間

v 製造間接費勘定を設けている。

取 引

/2月 3日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材	240個	@¥3,400	¥816,000
工場消耗品	500個	〃 250	¥125,000

6日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材220個を消費して製造を開始した。

21日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額	¥1,480,000
うち、控除額	所得税 ¥126,000 健康保険料 ¥86,000

- 31日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は200個であった。よって、消費高を計上した。
- ② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。
- 製造指図書#1 700時間 製造指図書#2 600時間 間接作業 250時間
- ③ 健康保険料の事業主負担額 ¥86,000 を計上した。
- ④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料	¥95,000	保 険 料	¥25,000
減価償却費	¥40,000	雑 費	¥10,000

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	400時間	300時間
	製造指図書#2	350時間	250時間

- ⑥ 製造間接費を次のとおり各部門に配分した。
- 第1製造部門 ¥308,000 第2製造部門 ¥168,000
- 動力部門 ¥72,000 工場事務部門 ¥48,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配 賦 基 準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	工場事務部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×100時間	8kW×150時間	—	4kW×200時間
工場事務部門費	従 業 員 数	10人	8人	2人	—

- ⑧ A製品（製造指図書#1）150個が完成した。
- ⑨ 当月の賃金実際消費高を計上した。ただし、当月の賃金未払高は ¥33,000 である。
- ⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

平成30年度

第62回簿記検定試験

1級(原価計算)

答案用紙

(制限時間 1時間30分)

(平成30年12月9日施行)

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

受験番号	①	②	③	④	総得点

2

組別総合原価計算表

平成○年/2月分

摘 要	X 組	Z 組
組 直 接 費 素 材 費		
加 工 費		
組 間 接 費 加 工 費		
当 月 製 造 費 用		
月初仕掛品原価 素 材 費	86,400	88,000
加 工 費	44,000	60,000
計		
月末仕掛品原価 素 材 費		82,000
加 工 費	24,000	
完 成 品 原 価		
完 成 品 数 量	個	個
製 品 単 価	¥	¥

Z 組 製 造

前 月 繰 越	148,000	() ()
素 材	492,000	次 月 繰 越 ()
労 務 費	340,000	
経 費	114,800	
() ()		
()		()

3

(1)	ア		イ		ウ		エ	
(2)	ア	¥	イ	¥	ウ	¥	エ	¥

受験番号	②	③

(1)

受験番号	④(1)

(2)

消費賃金

(3)

部 門 費 振 替 表

平成〇年 / 2月分

(4)

原 価 計 算 表

(5)

4(2)(3)(4)(5)

4

(2)

消費賃金

※ 12/31 賃 金	1,476,000	12/31 諸 口	1,426,000
		〃 賃率差異	50,000
	1,476,000		1,476,000

第1製造部門費

12/31 製造間接費	308,000	12/31 製 造	375,000	※
〃 諸 口	71,000	〃 製造部門費配賦差異	4,000	
	379,000		379,000	

(3)

部門費振替表

相互配賦法

平成〇年12月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	工場事務部門
部門費合計		596,000	308,000	168,000	72,000	48,000
動力部門費	kW数×運転時間数	72,000	36,000	21,600	—	14,400
工場事務部門費	従業員数	48,000	24,000	19,200	4,800	—
第1次配賦額		120,000	60,000	※ 40,800	4,800	14,400
動力部門費	kW数×運転時間数	4,800	3,000	1,800		
工場事務部門費	従業員数	14,400	8,000	6,400		
第2次配賦額		19,200	※ 11,000	8,200		
製造部門費合計		596,000	379,000	217,000		

(4)

製造指図書# /

原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集 計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
1,002,000	184,000	第1	200	500	100,000	直接材料費	1,002,000
	644,000	第1	400	500	200,000	直接労務費	828,000
	828,000	第2	300	400	120,000	製造間接費	420,000
					420,000	製造原価	2,250,000
						完成品数量	150個
						製品単価	¥ 15,000 ※

(5)

月末仕掛品原価 ¥ 1,555,000 ※

④(2)×3×4×5

※ 4点×6=24点

平成30年度

第62回簿記検定試験

1級(原価計算)

採点基準

(平成30年12月9日施行)

1

	借 方	貸 方
(1)	仕 損 品 13,000 仕 損 費 267,000	製 造 280,000
(2)	賃 率 差 異 74,000	売 上 原 価 74,000
(3)	売 掛 金 9,480,000 売 上 原 価 5,170,000	売 上 9,480,000 製 品 5,170,000
(4)	第1工程半製品 2,400,000 第2工程製造 5,700,000 製 品 6,810,000	第1工程製造 2,400,000 第1工程半製品 5,700,000 第2工程製造 6,810,000
(5)	1 級 製 品 4,284,000 2 級 製 品 1,836,000	製 造 6,120,000
(6)	健 康 保 険 料 320,000	本 社 320,000
(7)	棚 卸 減 耗 費 12,500 (棚卸減耗損)	買 入 部 品 12,500

①	②	③	④	総得点
4点×7=28点	※ 3点×5=15点 ◎ 1点×1=1点	2点×8=16点	※ 4点×10=40点	100点

2

組別総合原価計算表

平成○年/2月分

摘 要	X 組	Z 組
組 直 接 費 素 材 費	391,400	492,000
加 工 費	288,000 ※	454,800
組 間 接 費 加 工 費	96,000	204,000
当 月 製 造 費 用	775,400	1,150,800
月初仕掛品原価 素 材 費	86,400	88,000
加 工 費	44,000	60,000
計	905,800	1,298,800
月末仕掛品原価 素 材 費	61,800 ※	82,000
加 工 費	24,000	64,800 ※
完 成 品 原 価	820,000	1,152,000
完 成 品 数 量	2,000個	3,000個
製 品 単 価	¥ 410 ◎	¥ 384

Z 組 製 造

前 月 繰 越	148,000	(Z 組 製 品) (1,152,000) ※
素 材	492,000	次 月 繰 越 (146,800)
労 務 費	340,000	
経 費	114,800	
(組 間 接 費) (204,000) ※		
(1,298,800)		(1,298,800)

3

(1)	ア	3	イ	7	ウ	2	エ	8
(2)	ア	¥684,000	イ	¥738,000	ウ	¥1,783,000	エ	¥985,000

②	③
※3点×5=15点 ◎1点×1=1点	2点×8=16点

4

(1)

	借 方	貸 方
1/2月3日	素 材 816,000 工 場 消 耗 品 125,000	買 掛 金 941,000
6日	製 造 728,000	素 材 728,000 ※
21日	賃 金 1,480,000	所 得 税 預 り 金 126,000 健 康 保 険 料 預 り 金 86,000 当 座 預 金 1,268,000
①	製 造 間 接 費 110,000	工 場 消 耗 品 110,000
②	製 造 1,196,000 製 造 間 接 費 230,000	消 費 賃 金 1,426,000 ※
③	製 造 間 接 費 86,000	健 康 保 険 料 86,000
④	製 造 間 接 費 170,000	電 力 料 95,000 保 険 料 25,000 減 価 償 却 費 40,000 雑 費 10,000 ※
⑤	製 造 595,000	第1製造部門費 375,000 第2製造部門費 220,000
31日 ⑥	第1製造部門費 308,000 第2製造部門費 168,000 動 力 部 門 費 72,000 工場事務部門費 48,000	製 造 間 接 費 596,000
⑦	第1製造部門費 71,000 第2製造部門費 49,000	動 力 部 門 費 72,000 工場事務部門費 48,000
⑧	製 品 2,250,000	製 造 2,250,000
⑨	消 費 賃 金 1,476,000	賃 金 1,476,000
⑩	賃 率 差 異 50,000	消 費 賃 金 50,000
⑪	製造部門費配賦差異 4,000 第2製造部門費 3,000	第1製造部門費 4,000 製造部門費配賦差異 3,000 ※

④(1)

※4点×4=16点